



商売繁盛 浪花の根性

B05LA013 呉山麻季

大阪らしさといえば、やはり商売にける情熱だと思います。あまりに熱心で、けちだとか、お金に関してせこいみたいなイメージを持っている人もいますが、それが大阪のいいところだと思いたいです。

そんな中生まれた様々な名産品の中でも、堺の包丁は長い歴史を誇っています。16世紀、ポルトガルから伝来した煙草の栽培が全国に広がり、煙草の葉を刻む“たばこ包丁”の生産が鍛冶技術集団がいて鉄砲鍛冶も得意としていた堺の一手に引き受けられました。輸入もののたばこ包丁よりいいものだったそうで、江戸幕府は堺のたばこ包丁に「堺極」(さかいきわめ)の極印を刻んで専売特許にまでしたそうです。こうして大阪は堺を中心に産業の基礎を固めていきました。

時代が進むにつれて、大和川などで大阪の中心から放されていった堺から商人がどんどん大阪市のほうへ移動し、産業や商売の中心は大阪へと移っていきました。そして今でもその伝統は大阪で受け継がれています。有名な千日前の道具屋筋に、堺一文字光秀という刃物屋さんがあります。大正5年に大阪に進出してきて以来、NHKの朝の連続テレビ小説などのロケも行われたそうです。この店では使い終わった包丁を持っていけば、包丁供養をした後、小さく短くなった包丁を縄切りや細工物の道具としてリサイクルするそうです。このように昔からの伝統を尊重してよりよくして今に受け継がせようという精神が大阪らしいなと思いました。

(千日前道具屋筋2005年7月28日午前11時30分撮影)

参考文献:堺市博物館常設展示『堺—仁徳陵と自由都市』



一、和を以って貴しと為す

B05LA014 柴村春奈

上の写真は、大阪は天王寺にある四天王寺の鳥居の写真である(重要文化財)。四天王寺は、推古元年(593年)に聖徳太子によって建立された。また、その伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」といわれ、日本では最も古い建築様式のひとつである。戦後まもなく天台宗から独立し、和宗を創立。四天王寺はその総本山である。毎月21日(大師会)・22日(太子会)には縁日があり、天王寺駅前商店街から寺の境内まで、日用品や他地域の特産物売る屋台など、様々な露店が朝早くから出る。この両日はもちろん人出は多いが、普段でも、特にお年寄りの方や外国人の方達が参詣しているのをよく見かける。

ちなみに、この四天王寺の境内にはなんと学校がある(上の写真の左側、建物らしき物体は校門)。寺の中に学校があるなんて、普通はありえないことであろう。校門を見ただけでは、それがまさか学校の校門だとは思わない人もいるのではないかと思った。

(2005年7月22日 16時3分 撮影)

参考にしたURL: 四天王寺公式HP <http://www.shitennoji.or.jp>



公費天国大阪

B05LA015 城麻実

ここは大阪府中央区南船場2～4丁目に渡る日本最大規模の地下街、クリスタ長堀である。全長約750m、地下4階地上1階に飲食店や服飾雑貨店など100店舗が並ぶ。1000台収容可能な巨大地下駐車場も併設し、市中心部の新たな娯楽スポットになるよう多大な期待を背負って1997年5月に開業した。地下ではあるが、客に閉塞感を感じさせないようとの配慮から吹き抜け部分も多く、天井に水が流れる造りの箇所もある。総事業費827億円、うち大阪市の負担が395億円のいわゆる「第3セクター」だ。施設内には明らかに予算消化のためと思われる意味不明のオブジェが点在し、人影もまばらである。これといった目玉が無くテナントの入れ替わりも激しいということを考えれば、同じミナミでもなんばパークスや心齋橋筋商店街の方に魅力を感じるのも当然なのかもしれない。第3セクターといえば南港にそびえるWTCとATCの2大赤字タワー、通称バブルの塔やOCATの破綻が有名だが、このクリスタ長堀も例に漏れず今年6月28日に特定調停が成立し、およそ317億円の借金を抱え破綻した。

(2005年7月13日午前11時頃撮影)



縁の下の古本屋

B05LA019 宗 利江子

この「BOOKOFF JR鶴橋駅店」は鶴橋駅構内中2階にある、入り口に直接改札のある珍しい古本屋だ。駅の側からも、もちろん外からも簡単に入ることができる。

通勤・通学の人をターゲットにした店構えになっていることは、JR全乗車人員数のうち約63%の人が定期を使用していることから伺える。というのも、この鶴橋駅は、JR大阪環状線、近鉄線、大阪市営地下鉄千日前線の3線が集まる、乗り換えによく利用される駅だからだ。これは近鉄大阪線で一位、環状線で二位の乗客数となっている。

大阪は東京に次いで中小企業の多い都道府県である。大阪府内はもちろん、府外から通勤してくるサラリーマンも多い。電車の中で暇つぶしにやることといえば、どうしても読書などに限られてくる。この店舗の中心にビジネス・新書類が配置してあるのは、そういう通勤時間の長いサラリーマンを客層に想定しているからだろう。同系列の店でも比較的學生がよく集まっている天王寺駅前店では、漫画やCDが中心だった。また、駅構内に店があるのは大阪のこの1店舗だけだ。集客への熱意が感じられ、大阪らしいと思った。

この駅にはそのほか、コンビニ、ファーストフード店、酒屋、立ち食いそば、喫茶店、さらには癒し系のCD販売などの出店もあった。交通機関としてだけでなく、乗客へのサービスも意識されていることが分かる。

駅は、大阪を支えるサラリーマンを更に支えている「縁の下の力持ち」とも言えるのではないだろうか。不況への対応に迫られて忙しい会社員を、時間をかけずに癒せる空間が、いつも通る駅なのである。

2005年7月2日 16時ごろ撮影

参考(全て7月14日調べ)

大阪府統計年鑑 <http://www.pref.osaka.jp/osakapref/toukei/nenkan/>

中小企業白書 <http://www.chusho.meti.go.jp/hakusyo/index.html>

BOOK OFF <http://www.bookoff.co.jp/>



大阪の看板は大阪を宣伝する

B05LA017 鈴木文子

これは何気なく撮った大阪・難波の写真である。看板が多く写っているのが分かる。宣伝効果のある看板は商いの街にとっては欠かせないものなのだ。

難波を歩いていると、新しい店の看板が派手なことに気が付く。テレビのように映像を映し出しているものもあり、こういった看板は発光ダイオードが使われていて、普通の電球式よりも消費電力量が抑えられる。発光ダイオードを使った信号機を例にすると、1灯あたり15ワット程度であり、電球式の70ワットよりも55ワットも少ない。ただ派手になって、電気を費やしていくばかりではないのである。しっかりと経済的効果も考えられている。

しかし派手になる看板の一方で、派手さとはまた違った看板も存在する。今回、難波の『花月堂』という店に話を伺った。その店では、立て看板や提灯などが多く売られていた。店の中で、和紙に文字を書く人の姿が目をついた。その方は、注文を受けた店にその店の商売繁盛を願い、売り物の看板とは別で屋号と絵を描いて渡しているのだそう。それには手書き独特の味が染み渡っていた。電飾で彩られた看板に見劣りしない一つの立派な看板である。

商売繁盛を想い、様々な看板が混雑している。その景観自体が私には大阪を背負う看板のように思われる。

撮影日：2005年7月10日午前11時31分 撮影場所：難波

参考にしたURL：『井手よしひろの財政情報』 http://www.jsdi.or.jp/~y_ide/030830led.htm

協力：『花月堂』のみなさん



今を息づく鎮守の社—タイガースに喝！—

B05LA018 鈴木和郁子

天王寺より谷町線にて一駅、四天王寺前夕陽ヶ丘に大江神社はある。大江神社の歴史は古く、現在でも四天王寺の鎮守であり、聖徳太子が祀られている。

これは大江神社で祀られている、日本で唯一の狛虎である。大江神社ではその昔、毘沙門天が祀られており、その守護獣が虎であるため、毘沙門天像と共に「阿吽」の対を成した狛虎がつくられた。しかし明治に入り王政復古の元に行われた過激な廃仏毀釈の動きにより、毘沙門天像と雌の吽形が大津に送られその混乱で行方不明になったという。そのため大江神社に残る阿形が残るのみとなった。

現在、唯存する狛虎の阿形は阪神タイガースファンの祈願の対象となっている。ことの端は平成十五年の星野監督の就任である。一人の阪神ファンが参拝を始め、その二年後に見事、阪神タイガースがリーグ優勝を果たしたのである。

参拝を始めたファンの方が出版に携わっていることも相俟って、口コミで広まり、阪神タイガースの守り神として知られるようになった。そして寄付により失われた吽形が復元され共に祀られ、訪れたファンのお供え物に囲まれている。

古くから人々に祀られ、この地を守護してきた狛虎は、その様子を時と共に変えつつも今なお人々に崇められ、親しまれている。人々が訪れるかぎり、狛虎は守り神として人々と共に生きつづけるに違いない。人々の願いと共に阪神タイガースに栄光あれ！

撮影：2005年6月30日



いち・じゅう・ひやく・せん・千林～ディスカウントの戦い～

B05LA020 田中聖子

ここは地下鉄谷町線千林大宮駅から京阪千林駅までをつなぐかのように伸びる、“千林商店街”。約660mの長い道なりに230店舗以上の様々な小売店が立ち並ぶ。

千林商店街は京街道沿いの交通の要所として古くから栄え、数百年前から市が開かれていた。戦後復興の中心地としてもいち早く商業が集積し、今も一大商業集積地を形成している。

あいにくの雨の日でも、軽快な、全国でも珍しい商店街オリジナルテーマソングの流れる商店街は活気あふれ、夫婦、家族連れも多く見ることが出来る。いいものを安く！それを求めて商店街を歩くことが人々の生活の一部になっている、というのはさすが商いのまち大阪といえる。「今日のお買い得品やで〜」「ほんま？じゃあそれ頂戴」「まいどっ」客に気軽に声をかけ、客もその声に笑いながら応える。そんな店のおばちゃんおじちゃんと買い物客との関係は、スーパーにはなかなかない関係ではなからうか。

とはいいつつも、千林はスーパーマーケット発祥の地。写真右端上部に見えるのは「トポス千林店」。千林商店街はこのほかに「ニチイ」など大型店が近接しており、共存共栄を掲げている。また、第3セクターの「千林くらしエール館」などの大型店も出店しており、終日賑わいを見せている。競争の中で自然と醸成された共存共栄によるディスカウント合戦が「日本一の安さ」を誇る秘密であろう。最近注目された大型店出店による地域活性化も、この商店街は古くから行われていたようである。大型店に負けてしまっさびしい商店街の町並みになってしまう地域もあるようだが、この千林商店街は逆に伸び悩む大型店にはっぱをかける気概すらある頼もしい商店街だ。

また、商店街、各小売店の歴史や土地柄を生かして『金儲けするためのまちづくり』ではなく、『みんなに喜んでもらうためのまちづくり』を目指す千林商店街は、古きよき商いの文化の生き証 拠でもあるだろう。

しかし商店街が“そうであるため”には影に表に多くの人々の努力と協力がある。商いの文化だけでなく、商店街はその土地の人々の歴史を物語るといっても過言ではないのではないだろうか。

2005. 07. 03. 13:18 撮影

(参考HP) <http://www.senbayashi.com/info/info.html> 千林商店街公式HP

<http://www.occn.zaq.ne.jp>

Osaka City Bicycle Map HP (7月6日閲覧)



汚れた鏡～道頓堀が映すモノ～

B05LA021 西岡侑子

道頓堀—大阪市の繁華街心斎橋にある川。歴史は古く、1615年に安井道頓らによって作られ、江戸時代には水上交通の要として、現在は阪神優勝時に、ダイビング場として名を残す。しかし水の色は得体の知れぬ色に染まり、ゴミが漂う。内部の様子は—素もぐり写真家塚崎慎一郎氏の実録を引用すると、川底はヘドロで覆われている(市の調査では一メートル)。自転車やビニール袋などの雑多なゴミが、殆どヘドロに埋もれた状態で、川底を埋め尽くす。といったものだ。これは大阪人の悪癖「みんながやってるからええねん」を映しているといえよう。心理学的な裏づけとして、集団心理のかわりを挙げる。これは責任感の欠如が集団の中で起こることなのだが、大阪人はこれに輪をかけた思想が根付いていると言える。そう、この悪癖は急に変わるものではないのだ。

今大阪は、多種多様な事柄が全国に発信されている。所謂ステレオタイプがほとんどだが将来そうでなくなるかもしれない。今後大阪人の悪癖のシンボルである道頓堀！と大々的に放映されないことを祈る。

参考URL

素潜り写真家塚崎慎一郎氏のHP

http://higashi-nagasaki.com/e_pub/EE2003-09-dotonbori.html

心理学のまとめサイト

<http://www.n-seiryu.ac.jp/~usui/>



サラリーマンの街～夜の京橋～

B05LA022 沼 真理恵

京橋はご存知の通り屋というより夜のイメージが強い街であり、夜になると仕事帰りのサラリーマンや飲みに来た人々で賑わいます。京橋は人口26,048人、世帯数15,629世帯の街です。京橋には夜の街を象徴するホストクラブ、キャバクラが密集しており、夜になるとホストやキャバ嬢をとっても多く見かけます。

この写真はBoys Barの二人です。「写真撮らせて！」というと愛想よくピースまでしてくれた二人。さすがホスト、愛想がいいです。ホストクラブはお店によってまちまちですが、だいたい初回¥5000～のお店が多いようです。テレビなどでよく目にするドンペリやボトルについて少し紹介します。ドンペリはシャンパンの部類でキープはできず、その場で飲みきるというものです。それとは逆にボトルはキープ可能で一般的にはヘネシー、マーテル、カミュの3種類があります。ボトルは減るのが以外に少ないので飲み方によってはリーズナブルな会計で済むことがあります。

この二人になぜこの仕事をしたのか尋ねると、「楽しいから」や「自分がどこまでやれるか試したい」などという回答が返ってきました。二人とも楽しく仕事をしているようです。

夜の活気に溢れた街、“京橋”にみなさんも一度遊びに行ってみてはいかがでしょうか。

撮影日：7月5日



目に余る違反 ヘルメットなしのママチャリと子供たち

b051a023 長谷川淳美

私が大阪に引っ越してきて驚いたことの1つは大阪の交通風景だ。当たり前だが人や車の量は多く、しかも車の運転は荒い。そんな中で子供たちはヘルメットなしで、お母さんは子供を後ろに乗せ車の走る道を通る。信号無視で有名な大阪で、その他の大阪の人では気づかないような交通事情をクローズアップしてみたいと思う。

2005年に入り大阪の交通事故死者数が全国最悪の水準となり、府警は同年3月9日、死者増加の大きな要因になっている自転車の悪質な交通違反に、刑事処分につながる「交通切符」(赤切符)を切る異例の取り締まりに乗り出した。対象は、自転車についても道路交通法で禁じられている信号無視や二人乗りなど。警察官が再三注意しても続ける悪質な違反には躊躇なく赤切符を切ることにした。

2月の府内の交通事故死者数は28人で月間ベースでは、平成11年3月以来の全国ワースト1位だった。1～2月の2ヶ月の統計でも56人と全国最悪。この内自転車に乗っていた死者は前年同期比8人増の18人と目だって急増している。また府警によると、府内で自転車が関係した交通事故は昨年20156件と過去最悪を記録。

そして東京から発足した「ママチャリ子供を守る会」では大阪府でも取り組みが始まった。大阪府議会議員尾辻かなこ氏が大阪府にヘルメット等の必要性を指導。大阪府でも「自転車事故が急増」の実態を受け、幼児用ヘルメットの着用を促進するチラシを作成、配布することになった。実際の全国統計では、ママチャリに乗る3割から4割の母親が転倒などの事故で子供を怪我させている。

最近では時たまだが、私はヘルメットを被せている母親を見かけることもある。これからも子供のヘルメット着用が広がり自転車事故の被害が小さくなれば、と願う。

注) 青切符と赤切符・・・反則金納付を求める告知書などの書類を「交通反則切符(青切符)とよぶ。一方、悪質な違反者に
出頭を求める書類が「交通切符」(赤切符)。赤切符の場合、交通即決裁判所で略式命令を受けるのが一般的で、刑罰以上なら前科になる。

参考にしたURL

事故関連ニュース・・・<http://www.mika-y.com/bbs/news/news.cgi?no=0&page=60>

ママチャリ子供を守る会・・・www.mama-chari.net

撮影場所・・・地下鉄我孫子駅周辺



ひったくり撲滅運動の成果はいかに

B05LA024 福永 結

大阪府内各地の街頭でよく目にするこのフレーズ。「気をつけやー あんたのことやで そのバッグ」。今や、大阪府がひったくり事件発生件数全国第一位であるということを知らない人はいないだろう。このようなポスターや看板などは、主に駅前や駐輪場前に貼られている。理由の一つとして、平成17年に入ってから自転車でのひったくり被害が64%と、ひったくり事件の約6割を占めていることが上げられるだろう。残りの36%は徒歩での被害である。更に細かい被害箇所別調査結果によると、前カゴ47.9%、右手32.4%、左手14%、右肩0%、左肩0%である。犯人は次のような人を狙うようだ。

- ① バッグを車道側に持って歩いている人
- ② 歩きながら携帯電話でメールや通話をして、周囲を注意していない人
- ③ 自転車カゴにバッグを入れ、防犯ネットなどを付けずに走行している人

被害者年齢層別での比率は10歳未満0%、10~20歳14%、21~30歳20%、31~40歳11%、41~50歳12%、51~60歳19%、61~70歳16%、71歳以上8%である。若い女性は見た目を気にして防犯ネットなどを着用しない人が多いので、ひったくり被害に合う確立も高いという。発生時間帯に関しては、15時~16時の高齢者たちの買い物の時間帯と、20時以降の帰宅途中のOLに集中している。

このように、犯人は警戒心に欠けている一人歩きの女性をターゲットとしている。自分だけは大丈夫という自信過剰が事件につながる。自転車には防犯ネットを装着したり、カバンを持つ時は道路と反対側の手に持ち、しっかりと自分の身から離さないように持つなど、意識することによって被害を防ぐことは可能である。

大阪府各地では今ひったくり撲滅運動を積極的におこなっている。住民の安全を守るためにも、治安の悪い地域という汚名を撤回するためにも…今一度、個人個人が自分の身を守ることを再認識することで、安全な街“大阪”を復活させることができるだろう。

撮影日時：2005年7月5日午前11時頃